



# 肝機能減退による 周産期疾病にはウルソ



ウルソデオキシコール酸は肝機能が減退した牛の手助けをします。

「動物用医薬品」胆汁酸製剤

## ウルソ<sup>®</sup>-5%

胆汁酸製剤：ウルソデオキシコール酸 5%



2kg(50g×40袋)

**効能・効果** 牛：ケトーシス、肝機能減退症

**用法・用量** 牛：1頭当たりウルソデオキシコール酸として2～3gを  
1日1回経口投与する。なお、症状に応じて適宜増減する。

### ウルソデオキシコール酸の薬理作用

**1 利胆作用**  
1)

**2 肝血流量増加作用**  
2) 3)

**3 肝機能改善作用**  
4) 5) 6)

**4 消化吸収改善作用**  
7) 8) 9) 10) 11) 12)

**5 解毒作用**  
13) 14)

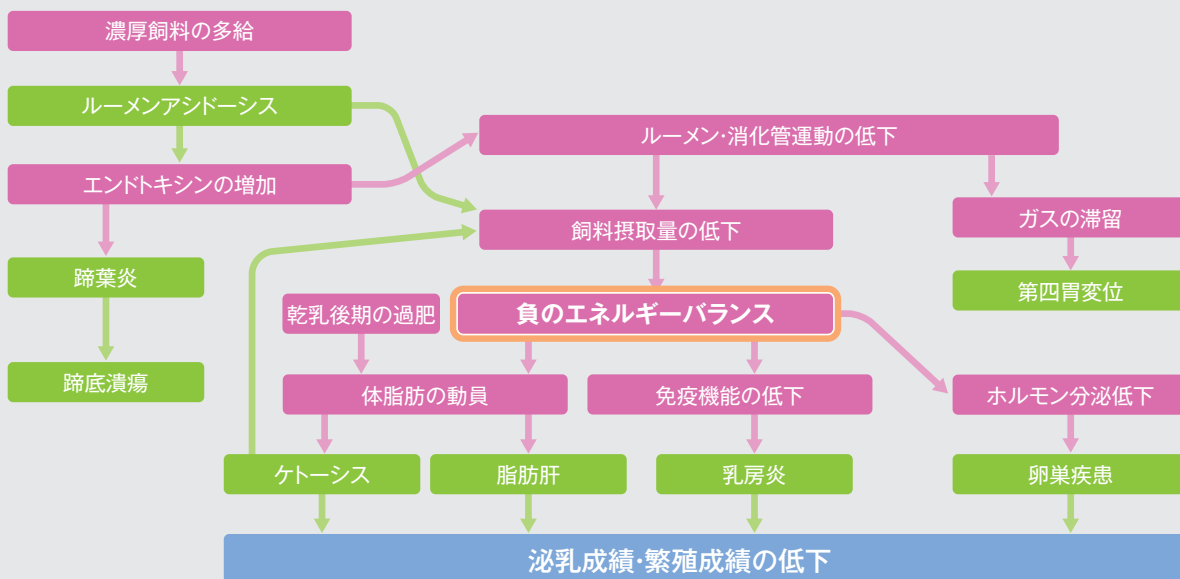
肝機能の改善

栄養素の消化吸収促進

エンドトキシンの分解



### 周産期における負のエネルギーバランスと生産性との関係



周産期疾病は、乾物摂取量低下による負のエネルギーバランスにより、体脂肪から動員された遊離脂肪酸（NEFA）が肝臓に運ばれ、多量のNEFAにより脂質代謝の能力を超えると、肝細胞に負担がかかります。

肝機能が減退すると、ケトーシス、脂肪肝の一次的要因になるだけでなく、代謝機能や免疫機能の低下、胆汁の減少による小腸での消化吸収能の低下、食欲不振等の原因となります。

その結果

● 泌乳成績の低下（乳量の減少、乳質の悪化） ● 繁殖成績の低下 ● 免疫機能の低下 ● 増体量の低下  
を引き起こします。

ウルソデオキシコール酸は肝機能が減退した牛の手助けをします。

# 乾乳期乳牛に対するウルソデオキシコール酸の 低用量長期間投与の効果

&lt;学会レポート&gt;

○安藤貴朗<sup>i)</sup>、本川裕介<sup>ii)</sup>、乙丸孝之介<sup>iii)</sup>、永野理樹<sup>iii)</sup>、窪田 力<sup>i)</sup><sup>i)</sup>鹿児島大学・獣医繁殖、<sup>ii)</sup>鹿児島大学・附属動物病院、<sup>iii)</sup>南薩農業共済組合

## ウルソ群において

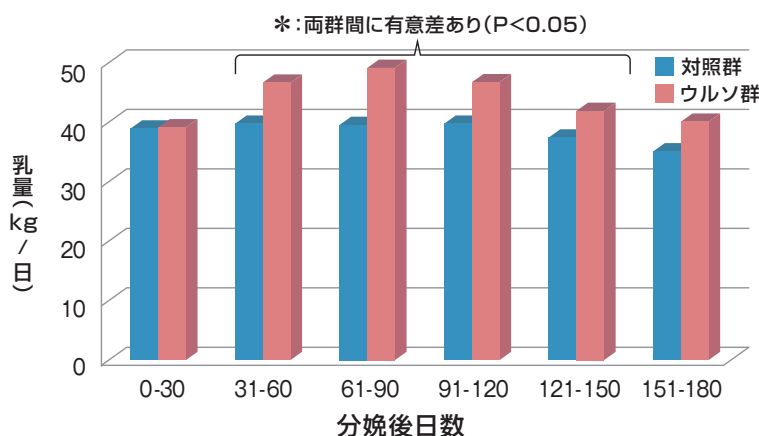
- 分娩後180日までの泌乳量が増加した
- 初回授精受胎率が高かった
- 繁殖疾病、および、繁殖以外の疾病が減少した
- 平均空胎日数が短縮した

## 肝機能の改善により生産性向上が期待されます

対 照 群 (n=56) 飼料のみを給与

ウルソ群 (n=58) ウルソ<sup>®</sup>-5% 10g (UDCAとして500mg)を飼料に混ぜて乾乳期(分娩前60日)から分娩5日後まで投与

### 泌乳成績

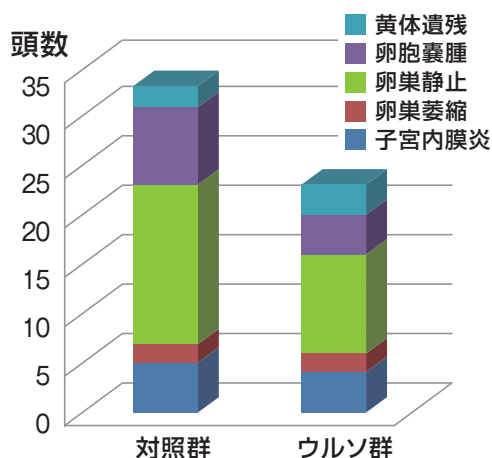


### 繁殖成績

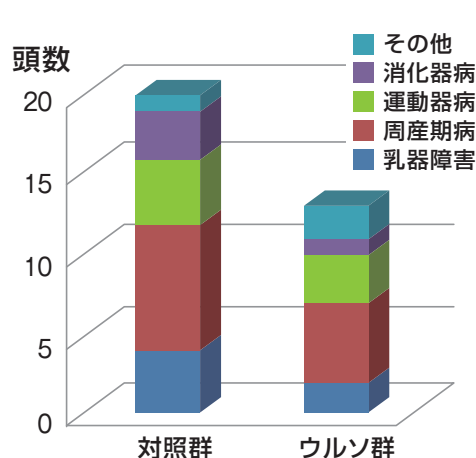
|        | 対照群          | ウルソ群         |
|--------|--------------|--------------|
| 初回授精日数 | 83.5 ± 22.3  | 81.7 ± 21.7  |
| 初回受胎率  | 28.6%        | 41.4%        |
| 空胎期間   | 145.9 ± 50.1 | 134.4 ± 45.6 |
| 授精回数   | 2.1 ± 1.0    | 1.6 ± 0.8    |

### 疾病発生状況

#### 繁殖疾病



#### 繁殖以外の疾病



### 引用文献

- 1) 戸田安士 他, 基礎と臨床, 10, 103, (1976)
- 2) 玉沢佳巳, 基礎と臨床, 9, 2371, (1975)
- 3) 安藤貴朗, 臨床獣医, 38(9), 30-35, (2020)
- 4) A Crosignani et al., *Hepatology*, 14(6), 1000-1007, (1991)
- 5) 田辺三菱製薬ウルソ錠添付文書より
- 6) Y. -S Chen et al., *Cells*, 8(3), 253, (2019)
- 7) 土屋周二 他, 厚生省特定疾患消化吸収障害調査研究班昭和57年度業績集, 99-104, (1982)
- 8) 村上由紀 他, 日獣会誌, 42, 245-248, (1989)
- 9) 大西信近, ビタミン, 12, 145-147, (1957)
- 10) 大西信近, ビタミン, 12, 147-149, (1957)
- 11) 原泰寛 他, 福岡医誌, 65 (12), 933-940, (1974)
- 12) 伊藤信也 他, 基礎と臨床, 10, 24, (1976)
- 13) 久保木憲人 他, 薬学研究, 31, 6, 29, (1959)
- 14) M. Funaoka et al., *J. Gastroenterol. Hepatol.*, 14, 652-658, (1999)